

〔武家名目抄職名二十五〕櫂取 水手

按櫂取は、船中にて櫂とるわざをつかさどるものなり、櫂取又挾抄ともかけり、かんどりといへるとなへは、かちとりの轉語なり、古く櫂取浦とかきて、かどりの浦とよめり、水手は櫂棹をとり、又船中の事は何事にかざらず、とりあつかふものなり、水手、或は水主ともかけれど、國史にはなべて水手に作れり、これをかこといへるは、櫂子の意なるべし、さて水手といへば、櫂取をもこめて、おほよそにとなへしごとく聞ゆるかたもあれど、かならず兩名の分ちはある事なり、永承三年高野御參詣記に、櫂取四人、水手十人とあり、○中略又船子といふ稱あれど、これは櫂取水手のたぐひをよべるにて、別にさる種族あるにはあらず、

〔下學集上人倫〕水手スイシユ 櫂取カドリ 或作櫂、日本之俗説也

〔倭名類聚抄二微賤〕舟子水手 文選江賦云、舟子和名布奈古 於是擗棹擗、提也、女角反

〔倭訓栞中編二十二〕ふなこ 日本紀に、水手をよめり、舟子の義也、舟子は詩經にみゆ

〔人訓倫蒙圖彙〕水手者 家によつて立髪半髪、風儀さまざまあり、こゑよくして、歌にかんあるをよしとす、

〔延喜式三十大藏〕入諸蕃使略 ○中

史生、射手、船師略 ○中 各繩四疋、綿廿屯、布十三端略 ○中 船匠、柂師、各繩三疋、綿十五屯、布八端、僱人、挾抄

各繩二疋、綿十二屯、布四端略 ○中 水手、長繩一疋、綿四屯、布二端、柂師、挾抄、水手

長、及水手、各給帷頭巾、巾子、腰帶、黃布、黃衫、著綿帛襖子袴、及汗衫、褲、黃布半臂、其渤海、新羅、水手等、時當熱序者、停綿襖子袴、宜給細布袴、並使收掌、臨入京給、

〔享保集成絲綸錄四十二〕享保十三申年正月

諸大名手船之水主、脇指帶候儀、扶持人は各別荷をつみ候船の雇かこは、向後脇指帶申間敷候、但